

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第27週 (7/2-7/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		27週	26週	25週	24週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/2-7/8	6/25-7/1	6/18-6/24	6/11-6/17	6/25-7/1
			27週	26週	25週	24週	26週
小児科	RSウイルス感染症	→	6 0.33	6 0.33	5 0.28	7 0.39	37 0.27
	咽頭結膜熱		8 0.44	6 0.33	9 0.50	8 0.44	159 1.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51 2.83	45 2.50	64 3.56	60 3.33	395 2.93
	感染性胃腸炎		83 4.61	123 6.83	124 6.89	130 7.22	704 5.21
	水痘		10 0.56	9 0.50	9 0.50	5 0.28	72 0.53
	手足口病	○	26 1.44	17 0.94	14 0.78	2 0.11	115 0.85
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.11	5 0.28	1 0.06	68 0.50
	突発性発しん		15 0.83	19 1.06	19 1.06	9 0.50	73 0.54
	ヘルパンギーナ	○	33 1.83	14 0.78	4 0.22	2 0.11	151 1.12
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	3 0.17	2 0.11	24 0.18
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザ*を除く)		2 0.07	1 0.04	0 0.00	17 0.61	13 0.06
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	6 1.20	4 0.80	2 0.40	5 1.00	23 0.66
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(24件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	90歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳未満	臨床決定
結核	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
	女性	40歳代		百日咳	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
	女性	50歳代		百日咳	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌 感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定	百日咳	男性	40歳代	血清抗体IgGの検出
	男性	70歳代		百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出等
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出

・第27週は、結核4件(100)、腸管出血性大腸菌感染症3件(7)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(16)、百日咳15件(63)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第27週のコメント

＜手足口病＞前週より増加し1.44となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。

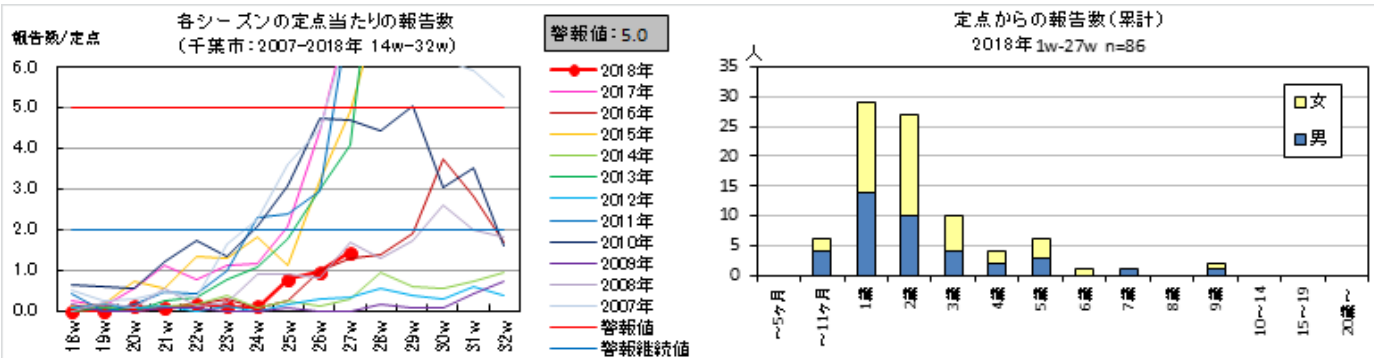
＜ヘルパンギーナ＞前週より更に増加し1.83となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると今後増加する可能性あり。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し1.20となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

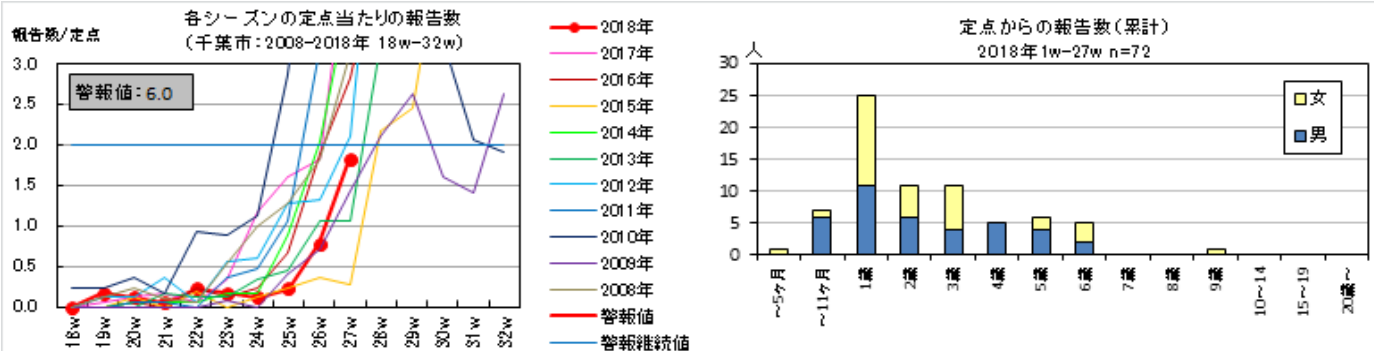
＜手足口病＞

全国レベルの第26週は、過去10年の同時期と比べて少なめとなっています。都道府県別では大分県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第27週は前週より増加し1.44となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、中央区(3.0/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第27週までの累積報告数(n=86)によると、性別では男性が41.9%(39名)、女性が54.7%(47名)で、年齢階級別では1歳(33.7%:29名)、2歳(31.4%:27名)、3歳(11.6%:10名)の順で多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第26週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では宮崎県、鹿児島県、青森県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第27週は前週より更に増加し1.83となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。例年の発生動向によると今後増加する可能性があります。区別の発生状況は稲毛区及び若葉区(共に3.0/定点)で最も多く、共に1歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第27週までの累積報告数(n=72)によると、性別では男性が48.7%(38名)、女性が51.3%(34名)で、年齢階級別では1歳(34.7%:25名)、2歳及び3歳(共に15.3%:11名)の順で多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第26週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では栃木県及び沖縄県、富山県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第27週は前週より増加し1.20となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は美浜区(5.0/定点)で最も多く、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第27週までの累積報告数(n=57)によると、性別では男性が53.3%(31名)、女性が46.7%(26名)で、年齢階級別では30歳代(15.8%:9名)、40歳代(14.0%:8名)、50歳代(12.3%:7名)の順で多くなっています。

